



発行所  
群馬県母子保護連盟  
一般財団法人群馬県母子寡婦福祉協議会  
電話 027 (255) 6636  
FAX 027 (255) 6652  
HP <http://www.boshikai-gunma.jp>  
Eメール: [gumboshi@boshikai-gunma.jp](mailto:gumboshi@boshikai-gunma.jp)  
前橋市新前橋町13番地の12  
群馬県社会福祉総合センター内  
印刷所 井田印刷工業株式会社

## こども達の幸せな未来のために

群馬県生活こども部長



上原 美奈子

日ごとに暖かさを感じられる季節となりました。  
皆様方には、ひとり親家庭並びに寡婦福祉の向上のために御尽力いただきありがとうございますことに心から感謝申し上げます。

また、群馬県母子保護連盟は、昭和二十三年に設立し、本年度末をもって、長い歴史に幕を下ろすことになりました。これまでの間、本県独自の母子福祉の向上のため、県母子会とともに大変大きな役割を果たしてこられました。この場をお借りして、信澤委員長をはじめとする役員、会員の皆さんの長年にわたる御苦労に心からの敬意と感謝を申し上げます。

新型コロナウイルス感染が長期化し、食料品やガソリンなどの物価が高騰するなど、私達の日常生活を取り巻く情勢の先行き不透明感が高まる中、ひと

り親家庭と寡婦家庭の生活を支援されている皆様方のひとかならぬ御苦労に対し、改めて敬意を表する次第です。

令和三年度群馬県ひとり親世帯調査によれば、ひとり親は、正規職員の割合が増したものの、未だ非正規雇用が多く、様々な不安や悩みを抱えながら、余裕も時間もない中で、できる限りの愛情をこどもに注いでいます。

国は、こども家庭庁を創設し、児童手当の拡充など「異次元の少子化対策」の議論をスタートさせたところであります。県におきましては、ひとり親家庭を支援するため、令和四年度から「経済的支援」、「就業支援」、「子育て・生活支援」に「養育費確保支援」を加えた四本柱の施策を総合的に推進しております。

今後、こども達の幸せな未来と、ひとり親家庭並びに寡婦家庭の皆様

福祉向上のため、各種支援を積極的に推進して参りますので、引き続き御協

力を賜りますようお願い申し上げます。

## ひとり親と子・寡婦福祉の

## 向上と安定を目指して

一般財団法人群馬県母子寡婦福祉協議会

理事長 高田 啓子

桜の便りが届く頃となりました。会員の皆様には、健やかにお過ごしのことと思います。

「新型コロナウイルス感染症」との向き合い方を「ウイズコロナ」に移行し、昨年は計画しておりました事業をほぼ実施することができました。平素より本会の活動に御理解をいただき、御支援・御協力をいただいております

県をはじめ関係機関、諸団体の皆様のお力なくしては成し得なかったことと深く感謝申し上げます。

群馬県母子会は、全国母子寡婦福祉団体協議会に加盟し、ひとり親家庭・寡婦の福祉の向上と安定を目指して活動しております。母子会の発足は、戦争未亡人の人達の「支え合い、繋がり合い」という思いが礎と承知しております。戦後の混乱の中で、家族を守り、子育てをするということは、現在とは違いますが、その心労は相通ずることと思います。

ひとり親、特に子育てをしながらの母の就労は、一層厳しい状況になっております。物価の高騰はさらに家庭を

脅かし、教育費の確保はますます難しくなっており、自助努力だけでは乗り切れない状況となっております。

ローソンの給付型奨学金制度やフードパントリー等様々な御支援・御協力の窓口として、ホームページやライン等を通して情報発信をしておりますので、ご活用いただけます。

私達母子会を後押ししてくださいました群馬県母子保護連盟が会を閉じたことになりました。母子会より先んじて結成されて以来、会員の皆様方に御支援を賜りましたことは、県はもとより、各市町村母子会が事業を計画し実施するという安定した活動の支えでございました。事業に参加された母子会員親子さん達の笑顔を添えて、厚く御礼申し上げます。

ありがとうございます。  
母子会はこれからもひとり親家庭・寡婦の福祉の向上と安定のために会の運営を進めて参りたいと考えておりますので、皆様方の尚一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。



# これから皆様の笑顔が 続きますように

群馬県母子保護連盟

委員長 信澤 美智子

春の暖かさを感じる季節となりました。会員の皆様方にはお元気で過ごしのこととお慶び申し上げます。

また、ひとり親家庭並びに寡婦の福祉増進のために御尽力いただき誠にありがとうございます。

昨年に続き、まだまだ今年もコロナ感染、物価高騰等が皆様の生活を脅かしておりますが、昨年のワールドカップでは、悲願の「ベスト8」には届かなかったものの、日本チームが強豪のドイツやスペインに勝利し、大いに感動いたしました。日本人の支え合う力、根性、努力が実を結んだのだと思っております。皆様方におかれましても、支え合っただけでこの現状を何とか乗り越えていただきたいと思います。

さて、平素より県を始め、各関係機関の方々には、ひとり親家庭、寡婦の福祉増進のため、御指導、御尽力いただき感謝申し上げます。

我々群馬県母子保護連盟は、戦後間もない昭和二十三年に結成以来、会員の皆様の御支援御協力を礎として、ひとり親家庭の支援を続けて参りました

が、この度、令和五年三月三十一日まで活動を終えることとなりました。

様々な活動の成果により制度が整い、時代の様相が変わるに連れ、全国的には次々と母連が姿を消す中、唯一群馬県だけが独自の路線を歩み、母子会と共に活動を続けて七十年余になります。この間、子ども達の笑顔や元気な姿に、我々の方が笑顔をいただくことがたくさんありました。

これまで我々の活動に御理解と御支援をいただきました会員の皆様、関係者の皆様にご心より御礼申し上げます。どうかこれからもひとり親家庭の皆様、寡婦の皆様方の笑顔が続きますよう今後とも皆様の御理解と御支援をよろしくお願い申し上げます。



## I 令和四年度実施した事業

### 1 母子寡婦福祉推進に関する事業

#### ひとり親家庭無料学習支援事業

◆期間 令和四年五月十四日(土)～令和五年三月四日(土)

◆場所 玉村町西児童館

◆参加者 高崎市中央公民館 ほか

◆内容 ひとり親家庭の小学生を対象として、各教室(玉村、前橋、高崎)

とも期間中の土曜日(月2回程度)に、無料学習支援を行っています。



真剣にドローンを操作(玉村)

子ども居場所づくりや保護者同士の情報交換・交流を目的として実施しているものです。

通常の学習のほか、課外学習では、普段見られない子どもたちの一面も見られ、楽しみながら子ども同士やスタッフとの交流を深めることが



保護者交流会での作品(前橋)

きたようです。

12月には各教室で工夫してクリスマス会を楽しんだり、保護者交流会では母子会からの情報提供や意見交換などを行いました。来年度も多くの方の参加をお待ちしています。



楽しかったマジックショー(高崎)

## ローソン給付型奨学金

ローソン株式会社が全国母子寡婦福祉団体協議会と組んで平成二十九年に創設した給付型奨学金です。

令和四年度の実施状況は次のとおり

◆対象 中学三年生から高校三年生まで

◆本県応募者 二十三名

◆選考方法 一次審査(書類)

二次審査(面接・作文)

◆本県採用人員 六名

◆奨学金 月額三万円(返還不要)

今年度は三年ぶりに面接試験を行い、ひとり親家庭でがんばっている親子の皆様にお会いすることができました。

奨学生も、惜しくも採用にならなかった方も、夢の実現に向けたご健闘を願っています。

なお、令和五年度の募集要項等が県母子会ホームページに公開されていますので、ご覧ください。

# 第七十回 母子家庭・寡婦福祉県民大会

◆期日 令和四年十月二十三日(日)  
◆場所 県社会福祉総合センター  
大ホール

三年ぶりの大会とあって、慣れている役員の方達もやや緊張気味でしたが、信澤委員長、高田理事長の「皆で協力して大会を成功させましょう！」という激励にスイッチが入り、本番に臨みました。



群馬県副知事、群馬県議会議長、群馬県社会福祉協議会長等ご来賓の方々のご臨席を賜り、約百五十名の参加の下、式典が執り行われました。

### ◆体験発表

今年度の全国統一テーマ

「つなごう人の輪、守ろう地域の輪」

の下、体験発表が行われました。

### ○母子部体験発表

母子部副部長 関 由美

### ○寡婦の部体験発表

県母子会副理事長、沼田市母子会長 小林活代

副部長からは、これまで経験したことのない、コロナ禍での親子の生活の様子やその困難をたくましくしなやかに乗り越えて行く姿、また、母子会活動を通して得られたものや今後の展望についても語られました。

小林副理事長の発表では、突然ご主人に先立たれたから、二人の娘さんを育てるため、ひたすら頑張ってきた日々のこと、母子会活動への思いにも心打たれるものがありました。

改めて、母子会活動を若い世代にしっかりと繋いでいきたいという気持ち強くした体験発表でした。

この後、大会宣言、決議が採択され、式典が滞りなく修了しました。決議事項は次のとおりです。

### ◆決議

一 ひとり親家庭が安心して子育てと就業の両立ができるよう、公営住宅等への優先入居及び保育所等への優先入所を確実にするなどの環境づくりの充実を要望します。

一 「母子家庭の母及び父子家庭の父の就業の支援に関する特別措置法」に基づき、雇用拡大が図られるよう「ひとり親を対象とした雇用率制度」の創設や事業者への協力要請など積極的な正規雇用施策を講じるよう要望します。

一 児童扶養手当について、所得制限の緩和や同居親族の所得要件の廃止等社会状況の変化や生活実態に対応した制度の充実を要望します。

一 ひとり親家庭の物心両面における生活の安定を確保するため、引き続き養育費の支払い履行確保に向けた制度の拡充を要望します。

一 子どもの将来が生まれ育った環境に左右されることのないよう、給付型奨学金制度の拡充などの施策を積極的に推進していただくよう要望します。

一 「母子及び父子並びに寡婦福祉法」や「母子家庭の母及び父子家庭の父の就業の支援に関する特別措置法」に基づき、自動販売機や売店の設置を積極的に認めていただくことにも、これらの法律の周知に努めていただくよう要望します。

### 【第二部】

#### ◆講演会

気象予報士で県職員の北角友和氏を講師にお招きし「お天気出前講座〜天気予報のウラ側伝えます〜」というテーマで講演をいただきました。

身近な気象用語や群馬の気象特性など丁寧にわかりやすく教えていただき、天気予報を見る楽しみが増えました。



こうして、久しぶりに関係者が集まった大会は、皆が心をひとつにして成功裏に終わることが出来ました。参加された皆さんも皆で集まれることの素晴らしさを再認識し、晴れ晴れとした表情で会場を後にしていきました。

このほか、次の機関に要望を行いました。  
◆令和四年八月、県社会福祉協議会に、令和四年十月、自民党政調会に対し、自動販売機設置要望を行いました。  
◆令和四年十一月、女性団体連絡協議会を通じ、県及び県教育委員会に対し、五項目を要望しました。

### 【第一部】

「ここに幸あれ」の曲が流れると、会場はすっきり大会の雰囲気包まれ、

### 第七十五回 関東地区 母子寡婦福祉研修大会

(誌面開催)

(令和四年九月二十五日・さいたま市)

◆内容 全国統一活動テーマ「つながる人の輪、守ろう地域の輪」の下、母子に関しては「目指そう自立、活かそう支援策」、母子・寡婦共通テーマとして「母子と寡婦、共に育む子どもの未来」、子どもに関しては「すべての子どもに安心と希望を!」と題し、担当団体から課題報告がされました。また、各団体の活動状況報告、大会決議がなされました。

### 全国母子寡婦福祉研修大会

(インターネット配信参加)

◆期日 令和四年十一月五日(土)

◆場所 滋賀県大津市(近畿地区のみ)

◆内容 コロナ禍を考慮し、会場参加とインターネット配信を併用して、三年ぶりに開催されました。

研修討議では、各地区代表から子ども食堂、自立支援施策、フードパントリーなどについて発表・討議が行われました。

講演では、コロナ禍におけるひとり親家庭の状況と新たな支援について、シンポジウムでは、開催地の滋賀県で実施している「多機能型シェアハウス」や「クラウドファンディング」の素晴らしい取組が披露され、大会宣言・決

議を採択し、閉会となりました。

大会を通して、関係者が情報を共有し、課題を明確にして発信し続けること、せっかくある制度や施策に繋げ、しっかりと活かすこと、地域の人達、行政、他の福祉団体、民間会社等の多機関と連携することの大切さが印象に残りました。

### 子育てを卒業したお母さんの 東京観劇ツアー

◆期日 令和四年七月一日(金)

◆場所 四季劇場「春」

◆参加者 三十人

◆内容 コロナの影響で待ちに待った観劇ツアー。人数を絞り、感染対策をしっかりと行ってきました。

ホテルインターコンチネンタル東京ベイにてレインボーブリッジを眺めながらのランチビュッフェ。四季劇場では「アナと雪の女王」を観劇しました。



キャストの熱演、舞台装置とプロジェクションマッピングの融合による演出、生演奏が圧巻な舞台にすっかり魅了されました。

### 2 母子部「スマイル・スマイル」に関する事業

#### 親子ボウリング大会

(県共同募金事業)

◆期日 令和四年四月二十四日(日)

◆場所 パークレーン高崎

◆参加者 親子十三組 二十九人

◆内容 今年もコロナ禍でしたが、昨年の2倍近い方に参加いただき、親子で楽しくリフレッシュ！優勝、準優勝は奇跡的に「親子ペアでの受賞」となり、会場を沸かせていました。

#### 親子交流体験事業

(県社協社会福祉振興基金事業)

◆期日 令和四年七月十七日(日)

◆場所 那須どうぶつ王国・お菓子の城

◆参加者 親子十九組 四十人

◆内容 山梨方面から変更し、三年ぶりの実施。バスを降りると早速食べ放題のBBQでお腹を満

たし、可愛い動物、



珍しい動物たちとふれあいました。その後はお菓子の城に移動してアップルパイづくり。思い思いにパイに顔を



を描いてなかなかいい仕上がり！熱々のパイがおいしかったね！



### 親子で夏の自然を思いっきり 楽しもう！ in 赤城

(国立青少年教育振興機構

「子どもゆめ基金」事業)

◆期日 令和四年八月二十日(土)

◆場所 国立赤城青少年交流の家

◆参加者 親子九組 二十人

◆内容 今回初めて「子どもゆめ基金」の助成を受けて実施しました。コロナ第七波の渦中となり、泣く泣く日帰りに変更。更に当日は雨となり、屋外の活動が十分できませんでしたが、

チーム戦の「館内フォトラリー」や火起こしからの「カレー作りと防災ごはん体験」。夜は楽しく身体を動かした後、「キャンドルサービス」では、

ろうそくの灯りで、静かに心整えて1日を振り返り、協力することの大切さ、仲間がいることの素晴らしさについてお話を聞きました。ラストはいわしピックニックさんの元氣一杯で心温まるミニコンサート。とても充実した1日となりました。



ろうそくの灯りで、静かに心整えて1日を振り返り、協力することの大切さ、仲間がいることの素晴らしさについてお話を聞きました。ラストはいわしピックニックさんの元氣一杯で心温まるミニコンサート。とても充実した1日となりました。



### ひとり親家庭

#### 親子交流・体験事業

(県共同募金事業)

◆期日 令和四年十一月十九日(土)

◆場所 SUBARUふれあいの森赤城

◆参加者 親子十一組 二十五人

◆内容 昨年度の「なぞ解きin赤城山」に続いて赤城で「親子で楽しむ!宝探しとB

BQ!」を実施しました。天候も良く、美味し

いお肉を食べながら保護者同士

は話が弾み、子どもたちは森の中

で、難易度によって色分けされた「ピンク

」「黄色」「青」のスーパーボールを

チーム毎に探しました。静かな森の中には子どもたちの笑い声が響き渡っていました。



イベント終了後、子ども達にはお菓子がたくさん詰まった宝箱をプレゼント。美味しく嬉しい、そんなイベントになりました。



### 親子交流体験事業

(県・親子ふれあい交流事業)

◆期日 令和四年十二月十一日(日)

◆場所 相模湖プレジャーフォレスト

◆参加者 親子十一組 二十四人

◆内容 今年もドイツニーの団体チケットが取れない状況で、昨年行くはずだった相模湖プレジャーフォレスト

にリベンジしました。食べ放題の

BBQに直行し、その後はアスレチック

や遊園地など思い思いに広い園内

を巡り、豪華イルミネーションを堪能

思ったより寒くて雨もばらつきましたが、全国旅行支

援でお土産も買えて、心はほか

ほかだったことと思います。



### 親子スキー教室

(県・親子ふれあい交流事業)

◆期日 令和五年二月十二日(日)

◆場所 みなかみほうだいぎスキー場

◆参加者 親子十五組 三十三人

◆内容 三年ぶりのスキー教室は最高のスキー日和となりました。県庁スキークラブの職員の方々にマ

ンツーマンに近い状態で丁寧な御指導

いただき、上達も早かったようです。はやくも「また、来年も!」の声が

あがりました。



### 代表者会議(第一回)

#### ・全体会議

◆期日 令和四年四月二十四日(日)

◆内容 役員改選の年にあたり、各母子会及び県登録の方の中から推薦のあった十一名が役員として選出され、正副部長等については全員再任されました。また、令和三年度の事業報告と令和四年度の事業計画について意見交換が行われました。

### 関東地区母子部長会議

(オンライン会議)

◆期日 令和四年七月三日(日)・静岡市

◆内容 活動目標を「つなげよう、広げよう、みんなのネットワーク」と定め、各団体での母子会周知や新規会員獲得のための活動状況、母子会の課題や解決に向けた取組等について意見集約した結果が報告されました。

### 代表者会議(第二回)

(書面開催)

◆期日 令和四年十一月二十日(日)

◆内容 令和四年度事業の進捗状況の報告と、令和五年度の事業計画、特に、四月に実施予定の新規事業「おしゃべりカフェ(親)&レク(子)」について、意見を求めました。多くの方から賛同と運営に関するご意見をいただき、それらを踏まえ実施に向け準備を進めることとなりました。



## ラインお友達登録 230名達成!!

(R5.3.10現在)

いち早くお役立ち情報をお届け!  
県母子会ホームページからカンタンに登録できます!  
まだの方はぜひ!

ホームページも  
更なる充実をめざします!



ご意見・ご要望をお寄せください!

### 3 母子家庭等就業支援対策に関する事業

#### 母子家庭等就業・自立支援センター

ひとり親家庭の母・父の就業を支援するため、群馬県、前橋市及び高崎市からの委託を受け「群馬県母子家庭等就業・自立支援センター」を運営しています。

##### 一 無料職業紹介事業

就業支援のため、無料で職業紹介を行っています。

##### 二 自立支援プログラム策定

関係機関と連携し、相談者と一緒に自立に向けたプログラムを策定し、就業を促進しています。

○ひとり親家庭住宅支援資金貸付事業  
(令和三年度から)

母子・父子自立支援プログラム策定を受けたひとり親家庭で希望する方に対し、自立の促進を図ることを目的として、住宅支援資金貸付を行います。まずは当センターでプログラムの策定を受けていただいてから貸付を行う機関(県社会福祉協議会)にお繋ぎします。

##### 三 就業相談・就業支援

就業に関する相談のほかパソコン講習会や母子・父子自立支援員のための研修会等を実施しています。

##### 四 養育費相談

相談員による相談のほか弁護士によ

る無料相談会を実施しています。また、当センター内でも、ハローワーク就業情報の閲覧・検索が可能となっております。

更に、市町村やハローワークと連携して、児童扶養手当受給者が現況届を提出する時期に合わせて、市町村に出向き、出張相談会を開催しています。令和四年度は、十六市町村、計十六回、延べ七十一人の相談を実施しました。

ひとり親で悩まずにお気軽にご相談ください。

◆場所 県母子会内

◆利用時間 土・日・祝日を除く平日  
午前九時〜午後五時

#### 弁護士による養育費等無料相談会

◆期日 令和四年六月十一日(土)

令和四年十一月五日(土)

令和五年二月十八日(土)

令和五年三月十一日(土)

◆場所 群馬県社会福祉総合センター

◆参加者 二十一人

◆内容 ひとり親家庭の方や離婚をお考えの方を対象に、四回、弁護士による養育費等の無料相談会を実施しました。養育費のみならず、親権、面会交流、慰謝料、離婚調停、借金などの相談にも専門家の見地からの確かなアドバイスをいただきました。

#### 就業支援無料パソコン講習会

(一)基礎講習会(計四回)

◆期間 令和四年十月二日(日)から十一月十三日(日)まで

◆場所 中央総合学院高崎校

◆参加者 十三人

◆内容 ワード・エクセル基礎コース

(2)応用講習会(計四回)

◆期間 令和四年十月十六日(日)から十一月二十七日(日)まで

◆場所 中央総合学院TAC群馬校

◆参加者 十四人

◆内容 ワード・エクセル応用コース

今年度は、なるべく参加いただく皆さんのレベルに合った内容となるよう基礎・応用に分けて実施しました。

参加者からは、

講師の教え方がとても親切でわかりやすく、楽しく学べた。今までわからなかった所がよくわかった。すぐに仕事に活用できた。などの声が聞かれました。



#### 母子・父子自立支援員研修

◆期日 令和四年十一月十八日(金)

◆場所 群馬県社会福祉総合センター

◆参加者 二十六人

◆内容 前橋家庭裁判所からお二人の講師をお招きし、家庭裁判所の利用方法、養育費、面会交流等申立て手続き

について、教えていただきました。

裁判所の組織に始まり、調停や審判について、流れや書式を示しながら手続きの方法、費用、注意点を詳しくお話しいただき、参加者からは、養育費確保支援事業も始まり、実際に申請者が行う手続きがわかってよかった、などの声が聞かれました。

### Ⅲ 直近の主な支援制度の改正

#### 1 子どもに係る国民健康保険料等の均等割額の減額措置導入

子育て世帯の経済的負担軽減の観点から、国民健康保険に加入している世帯の未就学児の均等割額が、五割減額されることになりました。

◆軽減の対象となる保険料(税)

令和四年度の国民健康保険料(税)

から適用されます。

◆軽減の対象者

全世帯の未就学児(小学校に入学するまでのお子さん)

※詳しくはお住まいの市町村にお問い合わせください。

#### 2 母子父子寡婦福祉資金貸付金の額 改定

母子父子寡婦福祉資金貸付は、子どもの学費や入学資金、就職するために役立つ資格を取得するための費用など十二種類の貸付があります。

以下のとおり貸付額の改定がありました。

◆事業開始資金

貸付限度額…三、一四〇千円

◆事業継続資金

貸付限度額…一、五七〇千円

◆貸付のご相談

お住まいの地域の県保健福祉事務所  
(前橋市・高崎市にお住まいの方は、  
各市役所)が相談窓口となります。

3 群馬県公立高校入学者選抜制度の  
変更(令和五年度末に実施する令  
和六年度入学者選抜から)

◆対象学年

令和五年度新中学三年生から

◆選抜制度の内容

(1) 前期選抜・後期選抜を廃止し、1  
回の選抜を実施

(2) 実施時期は二月中旬～下旬

(3) 実施項目は第一日目が学力検査  
(五教科)、第二日目が面接等

(4) 選抜方法

全ての受験者を対象に、観点の異  
なる「特色型」及び「総合型」によ  
る段階選抜を行う。

(5) 合格発表は三月上旬

(6) その他詳しいことは「群馬県教育  
委員会のホームページ」をご覧ください。

◆問い合わせ先

群馬県教育委員会事務局高校教育課  
TEL:027122614644

IV 表彰 (敬称略・順不同)

令和四年度に母連及び母子会関係者  
が次の表彰を受賞されました。

1 群馬県総合表彰

○受賞者  
関根芳子(前県母連副委員長)  
○受賞年月日  
令和四年五月三日

2 群馬県知事表彰

○受賞者  
小林淳美  
(前県母子会副理事長・  
れんげつつじ会相談役)  
○受賞年月日  
令和四年十一月九日

3 全国社会福祉協議会会長表彰

○受賞者  
小林淳美  
(前県母子会副理事長・  
れんげつつじ会相談役)  
○受賞年月日  
令和四年十二月十三日

4 群馬県社会福祉協議会会長表彰

○受賞者  
宮田 晴美(片品村母子会)  
青木ひで子(藤岡市母子会)  
○受賞年月日  
令和四年十一月九日

V 役員改選 (敬称略・順不同)

1 県母子会役員

令和四年五月二十七日(水)に評議  
員会及び臨時理事会が開催され、次の  
とおり役員の改選が行われました。  
理事の任期は「令和四年五月二十七  
日から令和六年定時評議員会終結のと  
きまで」です。

理事長 高田 啓子  
副理事長 小林 活代 宮田 光子  
常務理事 金子喜代子  
津久井裕美  
理事 小此木安代 川島 秀子  
大槻 正子 矢内 友香  
松井 千明  
監事 宮田 紘子 萩原八重子

2 母子部役員

令和四年四月二十四日(日)に母子  
部代表者会議及び全体会議が開催され、  
次のとおり役員の改選が行われました。  
役員の任期は「令和四年四月二十四  
日から令和六年代表者会議まで」です。

母子部長 松井 千明  
副部長 関 由美 中澤 則子  
高橋 幸恵  
茂木 典子 戸室 善枝  
若林由佳理 飯島 弥生  
村岡 大恵 高山さつき  
宇田川洋子

御支援いただいたみなさま

〜温かいお気持ちを  
ほんとうにありがとうございました〜  
○食料支援  
よっちゃん家 井野川様

(社)群馬県ビルメンテナンス協会様  
○生理用品  
ぐんまほほえみネット(すてっぶぐんま)様  
連合群馬女性委員会様

○無料ご招待  
(株)ザスパ様  
(最終節・  
ご招待チケット)  
(株)コシダカ様  
(カラオケまねきねこ・  
親子無料ご招待券)



おくやみ

元県母子会評議員中里ミキ子様(太  
田市母子会)におかれましては、令和  
四年十一月二十九日ご逝去されました。  
元県母子会副理事長(太田市母子会  
長)小林政子様におかれましては、令  
和四年十二月十五日ご逝去されました。  
続けての訃報はとても残念で、辛い  
ものでした。最期まで、会のことを案  
じ、力を尽くしていただきましたこと  
感謝に堪えません。お二人の生前のご  
功績に深く敬意を表しますとともに、  
心よりご冥福をお祈り申し上げます。

Ⅶ 令和 5 年度行事日程(予定)

月	日	曜日	行 事
4	26	水	幹部・事務担当者研修会
	27	木	夢を応援基金「ひとり親家庭支援奨学金」 (ローソン奨学金) 申請受付締切
	30	日	第 1 回母子部代表者会議・全体会議 ★おしゃべりカフェ(親)&レク(子)
5	中旬	土	無料学習支援教室(玉村)開講式
	19	金	理事会
	26	金	評議員会
6	中旬	土	無料学習支援教室(高崎・前橋)開講式
	16	金	第 1 回県民大会準備委員会
	下旬	予定	★寡婦のためのスマホ教室
	下旬	土	弁護士による養育費無料相談会(年 3 回)
7	未定	日	関東地区母子部長会議
	7	金	子育てを卒業したお母さんの 劇団四季観劇とランチ
	22	土	ひとり親家庭体験研修
8	中旬		市町村出張就業・養育費相談会(～11月)
9	23	祝・土	第76回関東地区母子寡婦福祉研修大会 (東京都品川区)

月	日	曜日	行 事
10	上旬	日	パソコン研修会(～11月下旬)
	6	金	理事会 第 2 回県民大会準備委員会
	13	金	県民大会係員打合せ会議
	22	日	第71回群馬県母子家庭・寡婦福祉県民大会
11	上旬		お母さん旅行
	18	土	全国母子寡婦福祉研修大会(～19日(日)) (長崎県佐世保市)
	中旬		親子交流・体験事業
	中旬		母子・父子自立支援員研修会
12	上旬		東京ディズニーシーツアー(予定)
1	21	日	第 2 回母子部代表者会議 正副理事長会議
2			機関紙「母と子」発行
	中旬	土	無料学習支援教室(高崎・前橋)閉講式
	中旬		親子スキー教室
	下旬	土	無料学習支援教室(玉村)閉講式
3	中旬		理事会
	中旬		全国母子部長研修会
	下旬		評議員会

★は新規事業

お礼の言葉

車の両輪に例えられることが多い「母子保護連盟(母連)」と「母子会」。その一方の県母連が七十年余の歴史に幕を下ろすことになりました。

十年ごとに発行されてきた記念誌を紐解くと、結成当時の篤志家の方達の「母子家庭をなんとかしても救うのだ」という使命感に突き動かされるかのような凄まじいエネルギーが伝わってきます。

当時の母子家庭の方達も、それを力に自らも立ち上がり、以来、「母子会」と「母連」は当事者団体と支援団体という関係性で手を携えて活動して参りました。

様々な活動の成果により制度が整ってゆくと、各地で次第に母連が姿を消してゆく中、令和の時代まで活動を続け、ひとり親家庭を支え続けてくださった、群馬県母子保護連盟の皆様。その貴い歴史、先輩方のご尽力によって今があるのだということとを改めて胸に刻み、母子会は歩みを進めて参ります。

未だ解決が見いだせないウクライナ戦争。ここでもまた深く傷ついたひとり親家庭が生まれていると思うと胸が痛みます。

子どもたちが平和に、幸せに生きていける社会であるよう、これからも私達の活動を見守っていただければ幸いです。

ほんとうに長い間、ありがとうございます。皆様の御健勝と御多幸を心よりお祈りいたします。

群馬県母子寡婦福祉協議会会員一同